

# さあ、漕ぎ出そう 奏でよう

年間聖句「わたしは道であり、真理であり、命である。」ヨハネ14章6節

0歳児	1・2歳児	3歳以上
きもちいいね	そんぶんに	ここちよく
暑いので朝を流してもらい、心地よさを感じる	やりたいことを存分に楽しみ、そばにいる友だちの存在に気づき共感する	賛美することや祈ることの心地よさや喜びを知る
砂や泥、水に触れ、その感触に興味を示す	砂や泥、水の感触を味わったり、草花に触れたりしながら楽しんで遊ぶ	五感を使う楽しさやおもしろさを経験し、新しいことにも挑戦する

年間主題、上にいつも表記してありますが「**さあ、漕ぎ出そう 奏でよう**」です。

これはキリスト教保育連盟（全国）が掲げているものですが、みなさんはどんなことを連想されますか？  
新年度から早4か月目の7月にもなると、新入園児もすっかり園生活に慣れ、進級した子どもたちは、遅く、頼もしく成長している姿があります。

子ども達の環境への順応性、受け取る力、発揮していこうとする力の強さを感じます。さあ、これからもっと子どもたちは成長の大海原へ向かって漕ぎ出していくでしょう。

その子のちょうど良い時期に育ちが伴ってきます。決して隣の子と一緒にスピードではありません。ゆっくり漕ぎ出す子、さっささっさといく子がいます。私たち大人は子どものちょうど良いタイミングをそっと見守ってあげる存在でありたいものです。

このそっと見守ってあげる存在であることは案外難しいのです。子どもの不器用さ、もっとこうしたらいい・・・というのがわたしたち大人には見え見えですから。つつい口出し、手出しをしたくなるものです。先へ先への導きたくもなるからです。もちろん本当に必要な時にはそういう助け、援助は大いに必要です。

しかし大切なことは、大人の関わり方次第で子ども自身のタイミングを妨げることなく、その子自身の奏でようとする力・意欲・心情を大切にできるということです。

子ども達は漕ぎ出しています！そして奏でようとしています。

この小さいながらも遅い存在に対して、私たち大人は敬意を持ち丁寧に関わっていきましょう！

